

生きものたち

プロローグ

チヨットコイ チヨットコイ チヨットコイ
早口のコジュケイがまくしたてるものだから
皆 驚いてついていく

山之辺の途から見わたす円形劇場
新緑を敷き詰めた谷の斜面一杯に
フジとミズキの花たちが
そろってコーラスを始めてい
淡むらさきと純白の競演

細い径にひびく
チヨットコイの呼び声が
またいつそう早くなった



ウイंक

わたしの手のくぼみにしがみついている
小さな爪の 細くやわらかな指
ひんやりした長いしつぽを

かすかに緊張させて

やっぱりドキドキしているのか

ほおをふくらませるリズムが少し早い？

1メートルの高さから初めて見る

森の様子をぐるりとながめて

ぱちっ

あ、ウイंकした！

春の小網代

人間の足音に起こされて出て

まだ幼くみえる

カナヘビ 一匹

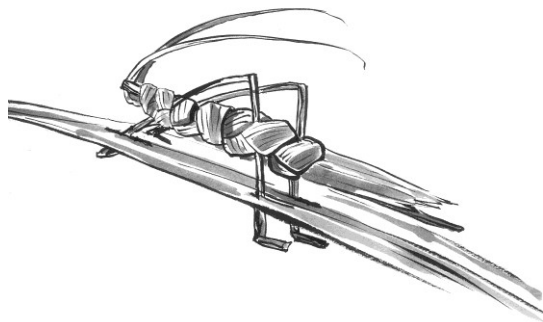


カシヤ、

不意に 草むらからはばたいてきて
軽やかに私の肩にとまった
ツチイナゴ

一冬越した大きなからだに
でも 楽な冬ではなかったのね
ふんばっているはずの
右中脚がない

手乗りの十姉妹のように
まるい眼をした小首をかしげ
ほら、シャッターを押すまで
ポーズをとっている



ヤマサナエ、飛ぶ

一度目は川面に落ちた
あわてて石に這い上がった細い脚は同じなのに
もう君は

さっきまでのヤゴではない
輝きながら空を飛ぶ生きもの

それが、そんなにシヨックなの？

大きく肩で息をつくように羽を動かして
いねいに足場を確かめる

何度も 何度も

飛べない

飛べない

まだ

生まれながらにして

飛ぶ力を授けられているトンボにしてさえ

初めての飛翔には

こんなにも勇気がいる

いわんや 人間においてをや

